

WE Scare WE Hunger



Pick up topic

国内の貧困/食料問題



資金支援 物資支援 ボランティア 啓発活動 自己行動変革 政策提言

日本の貧困 + フードドライブ = インパクト

フードドライブで食品を必要としている人に届けよう！

WE Scare Hungerは、全国のフードバンクを通じて、家に眠っている食品を、国内の必要としている方へ届けるアクションキャンペーンです。日本では7人に1人の子どもが貧困状態にも関わらず、年間612万トンのまだ食べられる食品が捨てられています。キャンペーンに参加して、誰もが安定した食事ができる社会のためのチカラとなろう！

日本では…

ひとり親世帯の貧困率は50.8%で、子ども全体の7人に1人が貧困状態です。

フードドライブにおける目標



約130g

= お茶碗1杯分の量の食品を救い、
必要としている人に届けよう！

※現在は、国民1人ひとりが毎日132gの食品を捨てている



WE Scare Hungerキャンペーンキットは、アクションを起こすための基本的な4つのステップを踏みながらアクションを起こせるようになっています。仲間と一緒にアクションを起こせるキット内容ですが、1人でももちろん大丈夫！私たちフリー・ザ・チルドレンも、1人の少年のアクションから始まりました。

フリー・ザ・チルドレンとは

1995年、ひとりの12歳の少年、クレイグから始まったフリー・ザ・チルドレン。「子どもになんか何もできないよ」、「おとなになってからやれば」と、活動を始めた当初、クレイグくんは周りからそう言われました。でも、「子どもだって変化を起こせる。子どもだからこそできることがある。」と信じて活動を続けたところ、だんだん仲間が増え、これまでに45か国以上で390万人の子どもや若者が活動に参加し、その結果、開発途上国に1,500校以上の学校を建設、100万人以上の人々が安全な水を飲めるようになりました。

日本では1999年から活動を開始し、「子どもや若者は助けられるだけの存在ではなく、自身が変化を起こす担い手である」という理念のもと、子どもや若者が自分の持つ力を発揮して、より良い世界をめざし行動を起こせるよう環境づくりに取り組み続けています。

(写真) 支援先のコミュニティーにて撮影
フリー・ザ・チルドレン設立者のクレイグ・キールバーガー、ケニアの子どもたち、マララ・ユスフザイ(2014年ノーベル平和賞受賞)



さあ、一緒にアクションを起こしていこう！

WE Scare Hunger

キャンペーンキット -目次-

ステップ1 問題やアクションに必要なことを調べよう

数字で知る「国内の貧困/食料問題」 /参考サイト	03
ストーリーで知る「「小学1年生の“せかいをかえよう大きくせん”」	04
調べて学んだことを整理しよう	05
WE Scare Hunger アクションの基本ステップ	06

ステップ2 目標を決めてアクション計画を立てよう

ゴールを決めよう /必要なことを整理しよう	07
役割分担をしよう /危機管理を考えよう	08
スケジュールを確認しよう	09

ステップ3 TAKE ACTION!アクションを起こそう

活動をやりきるアドバイス /活動する時に守ってほしいこと	10
活動中の記録を取ろう	11

ステップ4 アクションを振り返り、報告・お祝いしよう

アクションを振り返り、報告・お祝いしよう	12
--------------------------------	----

振り返りシート	13
活動終了証	14
キャンペーンチラシ	15

ステップ1 :問題やアクションに必要なことを調べよう！

◆数字で知る「国内の貧困と食料問題」

日本では…

- ・国の生活水準・文化水準を下回る“相対的貧困”の割合は15.4%で、これはOECD加盟国の平均よりも高く、その数、約1,900万人です。
- ・ひとり親世帯の貧困率は48.1%と高く、2014年にはOECD加盟国33か国中ワースト1位となりました。
- ・現在、18歳未満の子ども全体の13.5%、つまり約7人に1人が貧困状態にあります。
- ・日本では年間2,550万トンの食品廃棄物が出されています。
- ・そのうち、まだ食べられる食べ物が捨てられる“食品ロス”は、日本だけで年間612万トンあり、国民1人ひとりが毎日茶碗1杯分のご飯を捨てていることとなります。
- ・612万トンのうち、328万トンがお店での規格外品や売れ残りなどによる“事業系食品ロス”、284万トンが家庭での食べ残しなどによる“家庭形食品ロス”です。



SDGs(持続可能な開発目標)では…



ゴール1で
「世界中の、あらゆる形の貧困を終わらせる」ことを目指しています。



ゴール2で、**飢餓を撲滅し、**
全ての人が一**年中安全かつ栄養のある食料を十分得られること、**
小売/消費レベルにおいて**一人当たりの食料の廃棄を半減させること**を
目指しています。

調べ学習参考サイト

[子どもの権利条約 /フリー・ザ・チルドレン・ジャパン](#)

[子どもの権利条約 /UNICEF](#)

[SDGs /国際連合広報センター](#)

[JAPAN SDGs Action Platform / 外務省](#)

[SDGs17目標と169ターゲット /UNICEF](#)

[農村自立支援-教育- /フリー・ザ・チルドレン・ジャパン](#)

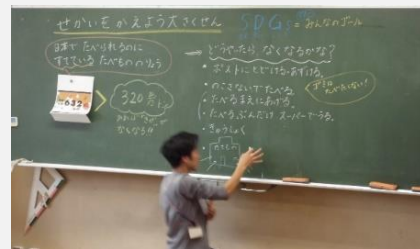
[SDGs4教育キャンペーン2020 /教育協力NGOネットワーク](#)

[世界の子どものストーリー \(教育\) /UNICEF](#)

◆ストーリーで知る「小学1年生の“せいかいをかえよう大きくせん”」

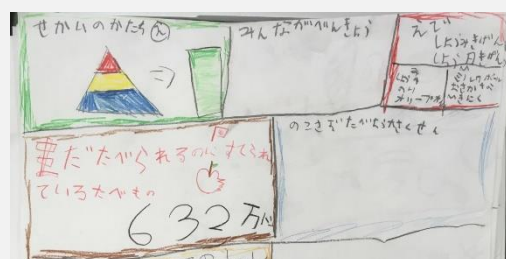
「せいかいをかえよう大きくせん」。

そう名付けられた活動は、私が担任を務めた小学校1年生の1つの学級にて行われました。そのクラスは学年の中で最も給食の完食回数が多いクラスでした。そこで、社会に参加する意識を育むための学級活動の一環で、食に関する問題について話し合うことにしました。まずは、国内外の飢餓と日本の食品ロスについてYouTubeの動画を使って簡単なレクチャーをしました。すると、クラスから「食べられなくて困っている人がいるのにご飯が捨てられているなんておかしい」「もったいない」「あげればいいのに」と素直な意見が飛び出しました。そこで次に、自分たちができることをグループごとで話し合い、その内容を全体で発表しました。出された意見は大きく分けて以下の4つでした。



授業の様子
食品ロスについてのレクチャー

- ①お金をあげる（募金活動）
- ②食べ物をあげる（フードドライブ）
- ③ニュースで知らせる（学校新聞作り）
- ④給食を残さず食べる（完食週間の開催）



新聞の下書き

事前に申請が必要な募金活動は、残念ながら時間が間に合わず出来ませんでした。しかし、「できるものは全部やろう！」と意気込み、計画を立てました。



収集日イメージ図

※写真は実際の写真ではありません。

中でも一大イベントだったフードドライブ。まず寄付先のフードバンクを探し、どのような食品なら寄付できるのかをクラスで確認しました。賞味期限と消費期限の違いについての学習もしました。また、回収日1週間前に行われた授業参観日に、保護者の方にも学習の報告をし、協力をお願いしました。

そして迎えた当日。「先生大変！！」とクラスの子もたちが職員室に押しかけ、「もう箱に入らないよ！」と嬉しそうな顔でロタに叫びました。子どもたちは自主的に役割分担し、食品の仕分けをし始めました。

結果、32人学級で22.2kgの食品が集まりました！

その日の夕方、新型コロナウイルス感染拡大防止のための全国一斉休校が決まり、振り返りや新聞づくりをクラスで行うことはできませんでした。それでも「僕たちは“せいかいをかえよう大きくせん”をしたんだ！」と嬉しそうに話すクラスの人々を見て、「小学生でも社会のためにできることがある・変えていくことができる」ということを、担任の私も、子ども達も体験することができました。この経験が、次の挑戦を後押しするものになってくれることを願います。

（文責：当時担任 広瀬太智）

【活動概要】

活動：フードドライブ（食品寄付）
 実施日：2020年2月
 実施者：小学校1年生32人、担任教員1名
 成果：食品22.2kgの寄付



集まった食品
 フードバンクから
 送られてきた食品受領の写真

◆調べ学習から何を学んだかな？

日本は他国に比べてもひとり親家庭の貧困率が高いが、それはなぜだろう？
また、その改善のためには何が必要だろう？

毎日十分にご飯を食べられないと、生活にどんな影響があるだろう？

日本の食品ロスはどこで多く出ているのだろう？また、それはなぜだろう？

食品の寄付により、子どもやその家族、施設にどんな変化が起きるだろう？

WE Scare Hunger アクションの基本ステップ

1. 最寄りのフードバンクを見つける

▼フードバンクや行政の窓口を探す

地域のフードバンクが見つからなかった時は、フードドライブの受取先を市役所/区役所などに問い合わせみるのも一つの方法です。

参考：農林水産省フードバンク活動団体一覧

(詳細https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/img/170412.html)

2. 食品を集める

▼集め方を工夫する

家の大掃除で家族と協力、友達と持ち寄る、学校で呼びかけて、など様々！呼びかける時も、みんなに楽しく参加してもらえるように工夫してみよう。

▼集められるものを確認する

買い取り業者によって集めているものも異なるので、先に確認しておこう。

どんな食品を寄付できるの？

- ・未開封であること（包装や外装が破損していないこと）
- ・賞味期限（要明記。塩や砂糖は除く）まで2か月以上あること
- ・冷凍・冷蔵でないこと ※世田谷区ウェブサイトより

(例) お米・小麦粉、インスタント・レトルト食品、パスタやそうめんなどの乾麺、海苔など乾物類、醤油・食用油・砂糖・塩など調味料、缶詰、飲料（お酒は除く）嗜好品（お菓子類、インスタントコーヒー、お茶など）、ベビー食品など

※あくまで一例です。まずは寄付先のフードバンクに聞いて詳しく確認しましょう！

3. 食品を届ける

▼集まった食品を、フードバンクや窓口に届ける

集まった食品の重さ・個数は、届ける前に記録しておこう！

届け方を決めよう（例：郵送、直接運ぶ、取りに来てもらうなど）

Q 家に寄付できる食品がなく、活動に参加したいと思ったとき、寄付するために食品を買うのと、その分のお金を寄付するのは、どちらが良いだろう？

ステップ2 :アクションの計画を立てよう！

問題について学んだら、アクションのゴールを決めよう！お茶碗1杯分は約130g。何杯分の提供を目指すかは自分次第！食品ロスを防ぎ、みんなが十分な食事を取れるよう挑戦してみよう！（※お茶碗1杯分は重さの例えて、集められる食品はお米だけではありません。）

アクションのゴール

- ・何人がこの活動に参加する？ _____ 人
- ・いつ・どれくらいの期間実施する？
【開始日】 _____ 【終了日】 _____
- ・メンバー1人1人のゴールは？（例：「1人1kg以上」など）
_____ kg
- ・グループで、 _____ kg、茶碗 _____ 杯分を集める。



食品の集め方

（いつ・どこで・どうやって集める？個人で？グループ内で？広く呼びかける？）

◆必要なことを整理しよう

アクションを起こす上で、味方になってくれる人/助けになってくれる人は誰だろう？友達、先生、家族、地域の政治家、企業など、考えられる人を書き出そう。すべきことはなんだろう？必要な資材などは何があるだろう？

こと	もの	ひと

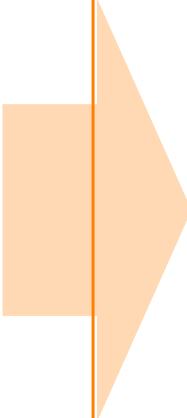
◆役割分担をしよう

行うことに対して担当する人（責任を持つ人）を決めておくと、円滑に活動ができるよ。考えられる役割を書き出して決めよう。例えば、ポスター/チラシを作る、先生に許可を取る、フードバンクを調べる・連絡を取る、集まった食品を管理する、などなど、他にも様々な役割がある！

役割	担当する人

◆危機管理を考えよう

アクションを進めていくと、壁に直面することもある。事前に対応策を考えておくと、実際に何か起こった場合もスムーズに解決することができるよ。例えば、目標の金額が集まらなかったら、どうする？アクションの期間を延長する？他の方法で足りない分を集める？どんな方法で？「これだ！」という対応策を決めておこう。

考えられる困難	対応策
	

◆スケジュールを確認しよう

ゴール達成に向けて、いつ何を行うのか、計画を立てよう。

大切な日付（アクションプランニングをしている今日、目標達成日、学校の行事などに合わせる場合のすでに決まっている日程など）を先に書き、達成させるために必要な鼓動を書き埋めていこう。

日付	やること
例) 7月20日	例) 全校集会で、夏休みが明けた始業式の日 ^に 食品を集めることを呼びかける。

ステップ3 TAKE ACTION! アクションを起こそう

遂にアクションを起こすとき！
活動中の写真や現状を発信しよう。
SNSで発信する時は、ハッシュタグも忘れずに。

アクションが上手くいかず、モチベーションが下がってしまった時には、調べ学習で感じたことや、目標を立てた時の想いに立ち戻ろう。

キャンペーン
ハッシュタグ

#WEScareHunger

～活動をやりきるアドバイス～

- ・楽しさを取り入れよう。
例：ミーティングの最初にアイスブレイクゲームをしてみよう。
- ・活動の成果に途中途中で目を向けて、成果を実感していこう。
- ・お互いに頑張っていること、よかったことを言葉にして伝えよう。
- ・無理なく実施ができているか、時と場合に応じて計画は見直そう。

楽しむことを忘れずに！

活動する時に守ってほしいこと

- 1 多様性を認め合い、年齢、人種、宗教・信条、民族性、障害、性的指向、外見を基準に差別や相手を傷つけるような言動・暴力はせず、それぞれの個性を尊重する。もし意図せず相手を傷つけてしまったら、立場に関係なく気持ちを込めて謝罪をする。
- 2 熱中症対策、交通機関のルール確認、避難経路の確認など、安全に十分に配慮する。
- 3 メンバーの顔写真や名前などの個人情報を本人の許可なく無断でSNSに載せない。
- 4 活動を通じて知り合った大人や子どもと、活動と無関係な理由で頻繁に電話やメールをしない。困ったらすぐに先生や大人に相談する。
- 5 子どもと大人は密室で2人きりにならない。
- 6 お金の貸し借りはしない。活動にお金が必要な場合は、どのように集め・管理するかしっかりと話し合って決めよう。

※子どもの権利条約に従い、「子ども」とは18歳未満のすべての人と定義しています。18歳未満の子どもは、権利を持つ主体と位置付けられ、おとなと同様ひとりの人間としての人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要と考えています。

◆活動中の記録を取ろう

成果や感じたことは、活動中に記録をしておこう。下の記録スペースも活用してください。振り返り/ポートフォリオ用ワークシートもあらかじめ見ておこう!

📝記録のポイント

成果の記録

- ・アクションを実施した期間(日数)
- ・設定した数値目標に対する結果(協力者数や成果の数値)

過程の記録

- ・成果を出すために、どのような行動を起こしたか。(簡単だったこと、難しかったこと)
- ・一番楽しかったこと、印象に残ったことはどんなことか。
- ・地域の人たちは活動に参加してくれたか。
- ・次回行おうとしたら、改善したいことはなにか。
- ・このアクションでどんな影響を与えることが出来たと思うか。

★写真や動画を撮れる場合

活動中の様子、活動場所の様子、準備したもの、成果物、新聞記事などを記録しよう!

✍️活動中に気づいたことを記録しておこう

ステップ4 アクションを振り返り、報告・お祝いをしよう

◆アクションを振り返ろう！

個人で・グループで、活動中に記録したメモを元に活動を振り返り、経験だけで終わらせず、“学び”にしよう。振り返りのワークシートを活用して、ポートフォリオとして保存し、今後も活かしていこう。

◆アクションを報告しよう！

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに活動報告はしましたか？
みんなのアクションが集まれば、そのチカラはもっと大きくなる！

アクション報告フォーム ⇒ <https://ftcj.org/we-movement/westory>

正式書類として活動終了証を利用する際に、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンからの証明サインが必要な場合は、以下の2点をお送り下さい。

- ①記入済みの「振り返り/ポートフォリオ用ワークシート」スキャンデータ
 - ②記入済みの「活動終了証」のスキャンデータ
- ※活動時に指導者がいる場合は、指導者のサインとコメントの記入必須

送付先：info@ftcj.org 件名：活動証明発行依頼 ※学校名・学年・氏名・電話番号を明記

◆アクションをお祝いしよう！

アクションの成功をお祝い・そして周囲に共有して、頑張った自分を称えよう！

- ・活動をまとめたポスターを作成して、掲示する
- ・活動中の写真や動画記録を作って学校のウェブサイトでも発信する
- ・活動を報告スピーチを全校集会やホームルームで行う
- ・活動をお祝いする賞状（活動終了証）を送る
- ・アクションをお祝いするイベント（報告会）を開く
- ・Change Makers Fesに参加する！

国内外の社会課題に対してアクションを起こした子ども・若者を招待し、その活動を祝い、発展に繋げるライブイベントChange Makers Fes（チェンジメーカー・フェス）を初開催します！子どもや若者世代が主役となって誰一人取り残されない持続可能な社会をつくるムーブメントに、あなたも参加しませんか？
詳しくはWEBサイトへ <https://ftcj.org/changemakersfes>

◆アクションを続けていこう！

SDGsを達成するためには、一人一人が継続してアクションを続けることがとても重要です。この成功体験を活かして、これからも活動を続けていこう！

【記入日】 _____年 _____月 _____日 学年 _____ クラス _____ 番号 _____ 名前 (_____)

実施内容

取り組んだ社会問題

	SDGsゴール
--	---------

実施期間

_____年 _____月 _____日 ~ _____年 _____月 _____日

メンバー

_____人 (名前: _____)

協力者数

成果

_____ kgを集めた

寄付先/活動先

振り返り

▶ 取り組んだ社会問題はなぜ問題なのか、このアクションはどんな変化に繋がるのか

▶ 目標達成に向けて、あなたが/チームが工夫したこと、達成できたこと

▶ 困難だったこと、どう乗り越えたか、次回行うとしたら、改善すること

▶ このアクションを通じて、学んだこと

切り取り

“WE Scare Hunger” 活動終了証

殿

あなたは ” WE Scare Hunger” キャンペーンに参加し、社会問題を学び、
解決のためのアクションを考え・実行しました。
ここに、そのアクションキャンペーンの終了を記します。
引き続きアクションを起こしていきましょう！
Be the Change!

活動期間：

参加人数：

社会問題：

実施内容：

活動を共にした仲間からメッセージをもらおう！

活動証明者記入欄（必要な場合のみ利用）

指導者	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン事務局



WE FREE THE CHILDREN

眠っている食品で地域の人のチカラに！
フードドライブで食品を必要としている人に届けよう！

WE Scare Hunger



日本では…

- ・国の生活水準・文化水準を下回る”相対的貧困”の割合が15.4%、子ども全体の7人に1人が貧困状態です。
- ・まだ食べられる食べ物が捨てられる”食品ロス”は、日本だけで年間612万トンあります。



SDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られること、小売/消費レベルにおいて一人当たりの食料の廃棄を半減させることを目指しています。

フリー・ザ・チルドレンは、WE Scare Hungerキャンペーンを通じ、子ども達が栄養ある食事ができる社会を応援します。

フードロスの10%が正しく必要な人に届いたら、日本のすべての子どもが、栄養ある食事(昼食)をとることができる！

※2016年の15歳未満人口1,578万人のうち、貧困状態が7人に1人。昼食(学校給食)の一食分は約700gで計算。

■活動方法

- ・地域のフードバンクや行政の窓口を確認し、集めている食品を確認する。以下が基本的な条件となっています。

①未開封であること(包装が破損していない) ②冷凍・冷蔵でないこと ③賞味期限まで指定期間以上あること

集めている食品例：お米・玄米・小麦粉、インスタント・レトルト食品、乾麺(パスタ、そうめん、うどんなど)、海苔など乾物類、味噌・醤油・食用油・砂糖・塩など調味料、缶詰(肉・魚・野菜・果物など)、嗜好品(お菓子類、インスタントコーヒー、紅茶、お茶など)、飲料(お酒は除く)、ベビー食品など

- ・食品を集めて、届ける。(当団体では回収していませんので、ご注意ください。)

■アクションを報告する

- フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告してChange Makers Fesに参加しよう！(<https://ftcj.org/wedayjapan/register>)
- SNSで報告⇒ハッシュタグ #WEScareHunger を付けてキャンペーンを広めよう！

WE FREE THE CHILDREN 「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に
認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは1995年に、当時12歳のカナダ人の少年によって貧困から子どもを解放することを目的に設立されたFree The Children(現WE)の日本支部として1999年から活動を始めた団体です。子どもや若者が国内外の問題に取組み、変化を起こすチェンジメーカーになるようにエンパワーしています。

TOGETHER WE WILL
change the World



本資料集は、「大東建託グループ未来基金」
のご支援によって作成されました。

お問い合わせ

認定NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F

TEL 03-6321-8948 Email info@ftcj.org HP <http://ftcj.org>

